

平成28年度 学校だより



平成28年5月6日(金)
御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

No.2

E-mail:

onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp

受けた恩を及へ繋げて

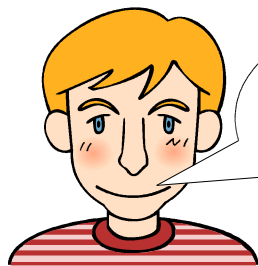
映画『海難1890』をご覧になりましたか。日本の先人たちの行動が後の日本人を助けるという感動するお話です。

1890年、和歌山県串本町沖。現在のトルコからの親善使節団を乗せたエルトゥール号が帰国の途に就きましたが、折り悪く台風に遭い、和歌山県串本沖で座礁して大破、乗組員600名以上が大荒れの海に投げ出されました。直ちにその救助に乗り出したのは、和歌山県沖に浮かぶ紀伊大島の島民たちでした。現場は、約60メートルの崖下にある海でした。そうした過酷な状況下で、地元住民が一人でも多くの生存者を助けようと崖下に降り立つと、息も絶え絶えな遭難者を背負い絶壁をよじ登りました。傷の手当てはもちろんのこと、冷え切った遭難者の体を抱き自分の体温で温めました。その懸命の救援活動によって、69名のトルコ人が助かりました。

それから約95年後に起こったイラン・イラク戦争中の1985年、イラク側が「イランの首都テヘラン上空を航行する航空機はどの国ののものであろうと撃墜する」という方針を決定しました。タイムリミットは二日後。日本政府は現地にいる日本人救出のために手を尽くしますが、限られた時間の中でもはや万事休すという事態に追い込まれ、在イラン日本人救出の救援機を送ることを断念しました。この時、取り残された日本人215名を救出してくれたのがトルコ航空機でした。現地のトルコ大使館から日本大使館へ「日本人に席を割り当てるから利用せよ」と連絡が入り、間一髪、無事に脱出することができたのです。

トルコの人たちはなぜ、危険を冒してまで日本人を助けてくれたのでしょうか。それは、1890年のエルトゥール号の海難事故がトルコの歴史教科書に載るほど歴史上重要な出来事で誰もが知っており、日本人に対して好意的であったからです。95年も前の日本の先人たちによるトルコ人遭難者への献身が、トルコの人たちに「恩」として受け継がれたということです。

このお話からも分かりますが、恩返しは、恩を受けた人に直接返すばかりでなく、後の人たちに、「恩を繋ぐこと」が恩返しであることを伝えていると思います。だから、親から受けた恩を子へ、上級生から受けた恩を下級生へと繋ぐことが、温かい家庭や学校づくりになっていくのではないのでしょうか。
(文責：竹原一人)



(トルコ人)

日本の人たちの優
しさは忘れません。

